令和４年度　寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

１　評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

（１）評価者

①寄附者（１２団体　※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（６名）

公立大学法人会津大学　理事　岩瀬次郎　氏
置賜広域病院企業団公立置賜総合病院
　臨床検査部長 兼 輸血部長 兼 病理科科長　前田邦彦　氏
前 奥羽大学　薬学部長　衛藤雅昭　氏
大和自動車交通株式会社　代表取締役社長　大村雅恵　氏
社会福祉法人恩賜財団済生会支部　福島県済生会
　済生会福島総合病院　院長　星野豊　氏
公益財団法人福島県産業振興センター　理事長　野地誠　氏

③学内評価者（４名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、
医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

（２）評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている　（計画の 100%超）
A：評価できる、適切である（計画の 80～100%程度）
B：やや改善を要する　（計画の 60～80%程度）
C：改善を要する　（計画の 60%未満）

２　評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

特に、講座の目的および計画に対して、どのような活動が行われ、どのような成果が上げられたのかを寄附者へ丁寧に説明すること、積極的に論文化に取り組むこと等の助言や、次年度が最終年度の講座に対しては、事業計画を完遂することへの期待が寄せられました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
総合内科・臨床感染症学講座	教育	S	・感染症学会認定施設になり専門研修受け入れ等地域医療にも貢献している。 ・コロナ 5 類感染症移行後も対策等の検証を重ね、研修教育の充実、地域社会貢献を期待する。
	研究	S	・計画を上回る実績を出していると認められる。 ・多数の論文発表、研究資金の獲得など、成果が顕著で、計画の一層の進捗が期待できる。
	診療	S	・地域における医療ニーズを把握し、県北地域の医療連携の中心施設として、また県内有数の感染症診療のリーダーとして、県北地域での一層の医療貢献が期待できる。 ・適切と考えられるが、負荷が大きとも思われ、病院（寄付者）と相談してはどうか。
ヒト神経生理学講座	研究	A	・データ解析等、着実に研究が実施されていることが評価できる。 ・非侵襲的脊髄刺激の人工神経接続の解明、応用が期待される。 ・最終年度令和 5 年度の研究計画にある、神経疾患患者での歩行誘導治療についてのまとめを期待する。
	診療	A	・会津地域における脳神経関連の専門的診療指導の重要性を認識し、着実に実践していることは評価できる。 ・会津地域における診療、特に脳疾患関係の中心医療施設として、期待される役割は大きく、一層の診療充実を図り、更なる地域貢献を期待する。
地域包括的癌診療研究講座	研究	A	・がん治療センターが開設し、薬物療法、放射線治療の実践と運営体制が確立されつつあり、成果として現れている。 ・会津地域におけるがん治療の課題が明確で、地域において包括的に治療できる体制づくりに向け、着実に取り組む姿勢を高く評価する。
疼痛医学講座	研究	S	・多職種からの研究発表や講師を務めるなど良い成果が得られている。 ・課題であった組織連携による仕事復帰プログラムが実践され、社会復帰・就労まで考慮した慢性疼痛医療が行えるようになったことは着実な前進であり、評価に値する。 ・コロナ環境が変わり、外来診療のみから入院等診療研究対応へと変化し地域連携体制の強化を期待する。

疼痛医学講座	診療	S	・制限された診療状況の中でも、多職種がそれぞれ工夫をしながら成果を上げており、極めて評価できる。 ・コロナ禍での診療体制の中、多職種チームでの活動を充実させ、情報共有し、院内外との連携を図るなど、地域医療への貢献度は高く、評価できます。
外傷再建学講座	教育	A	・医師のみならず、メディカルスタッフの教育にも熱心に取り組み、チーム医療体制の確立を目指し、そして実践できていると認められる。 ・自前で医師のリクルートにも成功するなど、期待以上の成果を上げているものと認められる。
	研究	S	・論文、学会発表ともに順調に進展しており、継続して高水準な診療活動が行われていることの表れと捉えることができる。 ・教育・研究・診療体制が整う中、研究成果発表も継続的に実施され、研究実施上の課題も明確に把握しており、難題解決策への取組姿勢を高く評価する。
	診療	S	・会津地域における診療実績は確実に大きくなり、同時に医師不足など課題も明確になっている中、計画を着実に実施し外傷症例の集約化を図っていることは高く評価できる。 ・人員不足でありながら手術件数の増加、診療連携は評価される。
周産期・小児地域医療支援講座	研究	A	・産科医療・周産期医療の岩瀬病院への移行に伴う診療体制整備やデータ解析等に対応し、実績を残したことは高く評価できる。更に周産期の多くの課題への取り組みには大いに期待している。 ・福島県の周産期死亡が高い原因解析、対応の研究が期待される。
	診療	A	・医大との連携による須賀川市周辺地域における小児周産期医療への貢献度は大きく、診療体制の維持拡充を期待。 ・地域の周産期・小児医療に貢献していることが評価される。
甲状腺治療学講座	教育	A	・県民調査による甲状腺症例は関心も高く、臨床研究への期待も大きい。よってそれを担う人材育成は重要課題であり、教育成果に期待する。 ・超音波検査指導、手術指導、講演の活動が評価される。
	研究	A	・講座設置初年度にもかかわらず、研究実績は素晴らしく、確実に成果を出していると考える。 ・震災後県民健康調査で発見された甲状腺腫瘍の研究が期待される。
	診療	A	・医大と連携しつつ、甲状腺専門外来実施をはじめ各種治療の実施により、良好な成果をあげており、更なる治療効果が期待できす。 ・甲状腺専門外来の実施、治療が評価される。
地域支援視機能再建学講座	教育	A	・円滑な臨床体制に向け、医師・看護師・救急スタッフ研修医に対し、必要な知識技術教育を実施していることを評価する。 ・ニーズは大きいものと思われ、今後の活動に期待する。

地域支援視機能再建学講座	研究	A	・病診連携の頻度向上による課題等を把握するなど、適切な研究の進捗管理がなされている。 ・院内はもとより、いわき地域医師との知識向上・研究、交流を深めており、病診連携による更なる地域医療の向上を期待する。
	診療	A	・講座設置初年度ながら、病診連携が進み、外来診療の質向上、高度手術加療実績向上など、地域における医療ニーズに果たした役割は大きく、高く評価できる。 ・地域医療への貢献を期待。貢献の質についての言及もあり、期待は一層高まっている。
低侵襲腫瘍制御学講座	研究	S	・当初からの研究目的を着実に実施し、消化器癌データベース研究、ロボット支援手術、化学放射線療法等、低侵襲治療の研究について継続的に実績をあげていることは高く評価できる。 ・研究成果が多数海外雑誌に掲載されており、高く評価される。
救急・生体侵襲制御学講座	研究	A	・レジストリーも開始されており、院外心停止などの予後との関連因子研究など所定の成果あり。各種ガイドライン委員会にも貢献。 ・学会報告、論文が出始まり、これを元に研究の発展計画が適切になされている。今後の活発な学会発表、論文化に期待。
白河総合診療アカデミー	教育	S	・初期研修医、専攻医、院内外の医師、医療スタッフに至るまで幅広い教育活動が行われている。 ・初期研修医、専攻医の多数の応募がみられ、高い評価を得ている。初期研修医の募集定員に対してフルマッチを達成している。
	研究	S	・自治体と共同して、住民を対象としたプロジェクトを開始して、現状分析から改善策に繋げる研究を行っている。 ・研究の質・量ともに充分である。令和 4 年度は 13 編の英文学術論文を発表し、過去最高となった。 ・今後、医大などの研究機関との研究連携も深めてもらいたい。
	診療	S	・入院・外来ともに前年比 15%増加、日中の全救急車対応、COVID19 感染病棟での中心的な役割を担うなど、質量ともに充実している。 ・地域のニーズは高まっており、それに応じた教員の増員の計画もあり、適切である。
心臓調律制御医学講座	教育	A	・医学生に対するアンケートを実施、知識の深まり等の効果が適切に検証されている。 ・教育を通して今後地域医療への貢献も期待される。
	研究	A	・不整脈疾患の病態解明において、着実に研究成果が出ている。 ・福島県内の不整脈診療のレベルアップを期待する。
	診療	S	・デバイス植え込み件数(112/113 前年)、カテーテルアブレーションなど着実な診療実績である。 ・治療待機時間短縮への取り組みに期待。

エピゲノム分子医学研究講座	研究	A	・計画通りに両アリル欠失細胞の樹立。論文 6 編は関連研究。 ・これまでに得られた研究成果の学会発表等を期待。
周産期間葉系幹細胞研究講座	研究	A	・周産期間葉系幹細胞の材料調達系と運用システムについて着実に研究が進んでいる。 ・年度末の進捗状況報告に加え、多数の論文によりその管理が適切になされている。
アスタチン核種治療研究講座	研究	A	・着実な進捗である。基礎調査を実施しネオペンチル化合物を選定した。 ・本学にとって重要な研究であり，今後の創薬開発に期待したい。
外傷学講座	教育	A	・研修医、医師、看護師へのセミナー実施。 ・COVID19 患者数の減少に応じて、外傷セミナーの回数増等を検討願う。
	研究	S	・①大腿骨近位部骨折の解析②PET-CT による感染の術前評価③マウスモデルによる誘導膜形成、3つの目的を同時進行させながら成果を上げている。 ・最終目標を達成できることを期待。
	診療	S	・外傷患者の初診患者数・入院患者数・手術件数ともに着実に増加傾向。 ・外傷データベースの症例は蓄積されており、解析結果のﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、ﾘﾊﾋﾞﾘ・看護研究のｻﾎﾟｰﾄ等を計画。今後のデータ解析による質の高い外傷治療に期待。
東白川整形外科アカデミー	研究	A	・人口減少の地域における整形外科の需要分析により、今後の課題も明らかになった。 ・患者数や手術件数が減少している一方、関節リウマチ外来の設置等により新たな需要発掘の可能性が見出された。
	診療	A	・骨軟部腫瘍領域治療を含め東白川地域のニーズに応えた外来診療体制が維持されている。 ・地域のニーズを考慮し、今後脊椎やスポーツ、骨軟部腫瘍外来の設置等が考慮されている。
スポーツ医学講座	教育	A	・若手医師・理学療法士への検診教育、小学生・高校生への指導実践等適切に行われている。 ・COVID19 患者数の減少に見合った検診規模の拡大が可能になることを望む。
	研究	A	・検診・メディカルチェック等で得られたデータの集積・解析が適切に行われている。 ・一定数の学会発表がなされ、またその論文化も順に進んでいる。
	診療	A	・県立医大、総合南東北病院を合わせた診療実績（外来 500 名、1 日平均 15 名）は計画通り。スポーツ外来が適切に機能している。 ・スポーツ外来の更なる発展に期待。

手外科・四肢機能再建学講座	教育	A	・院内勉強会に加え、県内の若手医師を対象に複数回のオンラインでの勉強会が開催され、適切な教育活動であった。 ・COVID19 患者数の減少に伴い、対面での勉強会開催に期待。
	研究	A	・613 件の治療データの蓄積、学会発表 7 件、論文 3 編と手外科・四肢機能再建治療成績が着実に集積している。
	診療	S	・他の病院ではできなかったいわき市における専門医療手外科手術を提供した。 ・医師数に見合った手術症例を維持した。 ・更なる医師派遣に期待する。
先端地域生活習慣病治療学講座	研究	A	・特に、数多くの英文誌への論文公表や全国学会での発表、会津大学との共同研究による AI プログラムの開発などは高く評価される。 ・南相馬市を中心とした診療モデルに加え、福島市、福島県全体の課題把握を通じ、慢性腎臓病等の予防活動が全県的広がりとなることを期待する。
	診療	A	・南相馬市での診療とともに、相双地域、あるいは浜通り全域の地域医療の充実にも資するという点で、極めて重要な取り組みと評価。 ・かかりつけ医からの紹介患者数が前年度比 10 倍に上る効果。 ・病診連携スキーム確立に向け、紹介患者大幅増が具体にどのような効果をもたらしたのかより明確にするとともに、必要とされる他地域への水平展開方策を期待する。
地域救急医療支援講座	教育	S	・講義前後における意識の変化等についてのアンケート調査を行い、その検討の結果、有意に意識の改善を認めていることが報告されており、適切な検証が行われていると評価する。 ・今後、研修医や消防学校の学生のみならず、当初の計画のように、対象を市内の中学生などに拡げ、より裾野の広い活動の展開を期待する。
	研究	S	・福島市 2 次病院への当直支援の効果を、搬送困難事案という視点で検討し、論文発表したことで、目に見える形で講座の福島市への貢献度が分かり、新たな示唆も示され、期待以上の研究成果を上げている。 ・救急医療は住民の命に直結するものであり、引き続き事案の検証と対策提言について、積極的な活動を期待する。
	診療	S	・福島市内の救急医療体制において、本講座による診療支援が救急搬送困難事案の解消に大きな役割を果たすなど、診療活動は極めて重要なものと思われる。 ・12 誘導心電図伝送システムの導入に寄与したことは本講座の設置計画に沿った診療活動として、高く評価される。
生体機能イメージング講座	研究	A	・南東北創薬・サイクロトロン研究センターでの PET 薬剤製造の基盤が整備されたことに伴い、昨年度に引き続き、当該年度も、多数の論文公表・学会発表がなされ、精力的に研究の進展が図られている。本邦のみならず、国際的な研究・診療の拠点となることが期待される。

生体機能イメージング講座			・悪性ガンや認知症対応に有意な PET 診断や薬剤導入について地域に還元する道筋を明らかにし地域医療への貢献を期待する。
癌集学的治療地域支援講座	研究	A	・癌治療をより効果的なものにするとの目的に対して、着実な研究計画をたて、研究成果を出している。 ・食道ガンに対する術前療法の生存率の現状から、新規治療戦略の開発に向け一層の研究進展を期待する。
災害医療支援講座	研究	A	・多くの論文掲載や学会発表が示され、とくに、福島災害医療研究会の継続・発展においては、優れた実績が積み重ねられていると評価する。 ・各々の地域課題と結びつけて、災害医療をいかに展開していくかという視点は大変重要であり、今後の展開を期待する。
	診療	A	・様々な医療課題と災害や感染症対応における地域特性を結びつける多角的なアプローチは極めて学際的で、大変重要な取り組みと思われ、その成果を高く評価する。 ・今後も活動を継続し、被災地の医療の充実への貢献を期待。
多発性硬化症治療学講座	教育	A	・本講座の設置目的に沿って精力的に教育活動が実践されていること、さらに国際的な活動も積極的に展開していることを高く評価する。 ・活動ごとに試験やアンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みがなされているが、さらに具体的な解析が期待される。
	研究	A	・非常に多数の論文掲載や学会発表が示され、優れた実績が積み重ねられていることを高く評価する。 ・MOG の抗体測定キットの開発や診断基準の確立は、潜在患者の掘り起こしや治療の進展につながると期待される。本講座での研究活動の継続とさらなる展開を期待。
	診療	A	・多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)、MOG 抗体関連疾患の診療には、様々な診療科や施設との連携が必要であり、これらを有機的に結びつけた積極的な診療体制の構築自体が大変素晴らしい実績と評価される。 ・診療体制を維持するとともに、今後、次世代の育成も視野に入れたさらなる展開を期待する。
地域婦人科腫瘍学講座	教育	A	・医師、コメディカル、学生、一般市民を対象に、寄附目的に沿った適切な活動が展開されており、初年度としては期待どおりの成果を上げているものと考えられる。 ・講演ごとにアンケートを実施するなどして、参加者の属性や感想・意見などの取り込みが必要かと思う。また、講演等の主旨を理解したかどうかを検討する適当な尺度があれば、それを活用した調査も有効かと思う。
	研究	A	・研究計画、とくに婦人科悪性腫瘍における腫瘍特異的発現タンパクについての検討および新規バイオマーカー・新規治療法の開発にそった研究がすすめられていると評価する。 ・全国的に低位にある福島県の健康指標改善にも貢献する、婦人科腫瘍治療のヘルスケアシステム構築に向けた先進的な取組を期待する。

地域婦人科腫瘍学講座	診療	A	・県中・県南地域での質の高い婦人科腫瘍学の診療を実現するために、極めて重要な取り組みと評価する。 ・本講座の設置期間を超えた、息の長い活動につながるような次世代の育成も期待。
運動器骨代謝学講座	教育	A	・骨粗鬆症の講演、講義、地域連携の取組は市民などの関心が高いものと思われ、全国的に低位にある検診率向上等に向け、医療関係者の理解をさらに高める取組を期待する。 ・教育活動の効果の評価をどのようにして行ったかについても具体的に記載されると活動内容が充実すると思う。
	研究	A	・新型コロナウイルスの感染拡大が続き、他施設共同研究の展開までには至らなかったが、個別の症例に対する治療法の検討は行われ、論文公表や学会発表につながった点は高く評価する。 ・最終年度に期待する。
地域産婦人科支援講座	教育	A	・青少年に対する啓発活動を継続して積極的に行っていることを評価する。啓発活動の成果や課題を明らかにして、啓発先の学校や教育委員会とのコミュケーションを活発に行うことが成果向上につながると考える。
	研究	B	・卵巣癌の早期発見や終末糖化物（SGEs)の周産期アウトカムに及ぼす影響などは重要なテーマであり、本講座における研究は極めて有意義な取り組みである。 ・追跡調査をするも有用なデータにならなかったことなど、現状における課題並びに課題を踏まえた対応を報告書に記載し今年度以降の取組にどのように生かしていくのか見える化して欲しい。
	診療	A	・いわき地域における産婦人科の精力的な診療活動が展開されており、その実践的な成果を高く評価する。 ・自己評価において、何をもって計画以上に進展しているのか、課題は何かを明確にすることにより、寄附者者並びに市民などへの適切なフィードバックにつながると考えられる。

３　評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を今後の活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策等は、以下のとおりです。

＜総合内科・臨床感染症学講座＞
・継続的に適切な教育活動を続けていく。
・地域固有感染症研究を継続する。
・診療負荷については、病院と相談していく。

＜ヒト神経生理学講座＞
・最終年度に結果をまとめ、その後で論文に発表する予定。
・会津地方全体の神経内科臨床に貢献したい。

＜地域包括的癌診療研究講座＞
・がん治療センターの開設に伴う多くの業務を整理し、詳細を公表して山間部の新しい癌診療のモデルとして発信する。
・会津地域の中核病院や会津医療センターなどと密に連携を重ねて会津地域の医療の拡充に努める。

＜疼痛医学講座＞
・医師以外のメディカルスタッフも学会発表など研究に取り組んでおり、今後も推進していく
・入院プログラムの再開により、対応した研究と診療を推進する。地域連携は不十分だと自覚しており、今後も有効な連携体制構築に向けて働きかける。

＜外傷再建学講座＞
・今後も対面式の活動にうまくオンラインを活用して教育活動を行う。
・継続してアピールしていきたいと思うが、人員不足は深刻で、診療活動も忙しく、これ以上の業績を出すのは、現状限界を感じている。

＜周産期・小児地域医療支援講座＞
・須賀川地方の周産期・小児医療の充実のために、継続した医療調査を行うとともに、産科・小児科医の育成を目指す。
・今後も診療支援を継続し、当地区の周産期・小児医療の充実に尽力したい。当地区の医療は重症心身障害医療など、県内医療の向上にも寄与することを念頭に診療活動を継続していく。

＜甲状腺治療学講座＞
・引き続き活動を推進する。

・指摘された県民健康調査で発見された腫瘍の研究に集中的に対応する。

＜地域支援視機能再建学講座＞
・地域全体の診療レベルを上げ、そして円滑な病診連携を行うために、コメディカルも含めた症例検討会などの勉強会を積極的に取り入れていく予定。
・よりスムーズでレベルの高い病診連携診療、そして高度な手術加療を維持できるよう尽力継続する。
・低侵襲な医療を提供できるよう、知識や技術の向上を図る。具体的には高度な手術とされる硝子体手術でも外来手術で対応する。

＜低侵襲腫瘍制御学講座＞
・新たな入職者もいるため、計画に沿って迅速に進めていくよう構成員に周知する。
・引き続き研究の計画、実施、分析、発信をスムーズに行うよう努力する。

＜救急・生体侵襲制御学講座＞
・初年度は各種レジストリの登録申請と研究申請などを行うなどの準備を整えたので、今後そのデータを活かし、本格的な研究に着手していく。
・救急・集中治療の重症患者に対する侵襲は多岐にわたるため、研究者毎にテーマ、目的をもち引き続き研究にあたる。
・研究結果がまとまり次第、学会発表、論文化を進める。

＜白河総合診療アカデミー＞
・初期研修医・専攻医そして医学生のニーズの把握に今後も努めながら、総合診療医に必要な到達目標を達成できるような教育を今後も展開していく。
・福島医大総合内科との連携を昨年度から実施しており、来年度には成果を発信する予定。医大のみならず他施設との連携を深め、より外的妥当性の高い研究を実施していきたい。
・引き続き病棟診療、外来診療、救急診療のどの部門においても地域のニーズに合わせてさらなる診療活動の充実を図っていきたい。

＜心臓調律制御医学講座＞
・一般市民向けの啓蒙活動について、新型コロナウイルス感染症の動向を見極めながら検討していきたい。
・研究活動を今後も継続的に行い、積極的に論文、学会発表を行う。
・不整脈診療ニーズに応えるべく、治療待機時間短縮に取り組む。

＜エピゲノム分子医学研究講座＞
・今年度科研費の先進ゲノム支援に採択されたため、樹立した細胞を用いてさらに研究を発展させていく予定である。
・研究の一部は今年度中の論文化を目標としている。

＜周産期間葉系幹細胞研究講座＞
・次期活動計画では実用化に向けた培養間葉系幹細胞の非臨床試験実施を目指したい。また、非臨床試験データに基づく臨床試験計画、治験計画の作成を目指したい。

＜アスタチン核種治療研究講座＞
・本学の発展に資する研究となるよう、着実に研究を進めたい。

＜外傷学講座＞
・現地開催、Web 開催など状況に応じて対応し、教育活動を続ける。
・今後も研究、発表を続け、最終成果をまとめる。
・今後も適切な診療を続ける。

＜東白川整形外科アカデミー＞
・過去の研究成果で得られた知見をもとに「診療体制の維持・拡充」のフェーズでの研究を継続する。若手教員の学会発表・論文執筆に対するサポートも継続する。
・常勤医の専門領域（手外科＆外傷、関節リウマチ＆骨粗鬆症）に加え、専門性を有した非常勤医師による外来診療（関節リウマチ＆骨粗鬆症、膝関節＆スポーツ、骨軟部腫瘍）を提供している。

＜スポーツ医学講座＞
・引き続き活動を継続する。

＜手外科・四肢機能再建学講座＞
・講座構成員による学会発表と論文化を行った。集積したデータは今後も大学病院での治療成績と比較検討しながら、論文化を進める。
・治療データの母集団が増えるごとに治療内容をまとめて発表することで、その妥当性を検証してきた。
・大学病院と同等の治療レベルを維持しながら、東北有数、かつ県内随一の手術件数を維持できた。

＜先端地域生活習慣病治療学講座＞
・引き続き活動を継続する。

＜地域救急医療支援講座＞
・コロナ禍の中、消防学校および臨床研修医に対する講義についてはオンラインを使用。制限解除に伴い、以前同様対面形式での教育へシフトする予定。
・論文によって、福島市独自の問題点が明らかとなった一方で、今後は解決策を考え実践し、その効果についても研究発表していきたい。
・12 誘導心電図伝送システムを導入したことで心臓疾患はもとより画像伝送システムへの応用も今後の救急活動に有用であることが判明したため、今後の活動につなげ

ていきたい。

＜生体機能イメージング講座＞
・次年度以降も腫瘍および認知症領域においてPETを中心とするマルチモダルイメージングによる臨床応用を進め、論文発表及び国内外の学会発表を積極的に行っていく。

＜癌集学的治療地域支援講座＞
・研究成果を地域医療に還元するために、得られたデータを着実に論文としてまとめ上げることを目標とし、さらなる実績を構築していきたい。
・単なる基礎的研究に終始せず、医学部消化管外科学講座で実施されている癌集学的治療に関する臨床的研究と緊密に連携をとりながら地域医療に貢献できるよう取り組んでいきたい。

＜災害医療支援講座＞
・引き続き、被災地の医療の充実に貢献するため、研究を展開していく。また、被災地の医療機関で診療に従事しながら臨床データを蓄積する体制を継続し、今後も地域医療の充実に貢献していく。
・今後も診察を通して自らの勤務する地域における受療動向及び住民のニーズを分析し、ニーズに合った診療活動を継続していく。

＜多発性硬化症治療学講座＞
・研究活動の成果の測定をより多面的に行っていく。
・抗体検査キット開発や診断基準の確立を完成させていく。
・県内での診療連携をさらに充実させ、若手医師の育成にも努力する。

＜地域婦人科腫瘍学講座＞
・次回は教育について具体的な効果を検証する。
・腫瘍の診断治療を契機とした女性のヘルスケアの新たな提言を本学から発信できる様努力する。
・安全でより良い医療を提供するため努力する。

＜運動器骨代謝学講座＞
・今後は、参加人数などについて可能な限り記録するよう努める。次年度は最終年度であり、寄附者と相談して当講座の実績を広く報告する。
・次年度は最終年度であり、総括にむけて研究を進める。

＜地域産婦人科支援講座＞
・教育活動の評価検証についてどのような方法で評価するか検討し導入したい。
・次回の報告会に間に合うようにデータの解析を行う。
・今後もいわきの産婦人科医療の発展に尽力する。